

新しい総合計画（原案）の概要

平成19年7月
北海道

1 計画策定の趣旨

時代の潮流と本道の状況を的確にとらえながら、今後四半世紀を展望しつつ、北海道がめざす姿と進むべき道すじを明らかにする。

（策定の経過）

- ・H18. 4 北海道総合開発委員会に計画部会、2つの専門小委員会を設置し、論議開始。
- ・H18.11 新しい総合計画の骨格（素案）を取りまとめ、パブリックコメント実施。
～ 道民、企業、団体や市町村などの参画を得て、双方向・対話型の手法による調査を実施。
これまでの意見の総数は、約5,000件。

2 計画の性格

道政の基本的な方向を総合的に示す計画であり、産業、保健・医療・福祉、教育などの分野における政策は、総合計画に沿って別に策定する分野別の計画等により推進する。

3 計画期間

長期的視点に立って、経済社会情勢の変化に柔軟に対応するため、平成20年度からおおむね10年とする。

4 計画の特色

- 道民と道がともに考え、ともに行動するための指針
- ビジョンと戦略重視の計画
- 経済社会情勢の変化などに柔軟に対応しうる計画
- シンプルで分かりやすい計画

基本構想 編

第1章 時代の潮流と北海道

（3p～10p）

＜時代の潮流＞

人口減少・超高齢社会の到来

（経済・産業） 労働力人口の減少等に伴う生産活動の縮小
（暮らし） 医療・福祉など生活関連サービスの低下懸念
（地域） コミュニティ機能や地方都市機能の低下

グローバル化の進展

国境を越える人・物などの移動の拡大と加速
世界経済の多極化
市場競争の激化・地域格差の拡大

深刻化する地球環境・資源エネルギー問題

地球規模の環境・資源問題

＜北海道の展望＞

〔 広域分散型の地域構造や北国の課題への対応
コミュニティの維持・再生
移住や交流人口増加に向けた対応 など〕

〔 地理的優位性を生かした近隣諸国との経済交流
海外のパートナーとの経済面での連携
外国人との交流機会の拡大〕

〔 世界に誇れる自然のもつ可能性
高い食料供給力と豊富な水資源
未来産業としての農業・林業・水産業〕

＜北海道の現状と課題＞

「経済・産業」「暮らしと環境」「地域」について、北海道の現状と主な課題を整理。

第2章 めざす姿

(11p～19p)

<めざす姿>

人と地域が輝き、世界にはばたく、環境と経済が調和する北海道

〔世界に躍進する産業〕

恵み豊かな大地で人々が希望をもって働き、世界に躍進する産業が展開する自立した北海道

〔ゆとりと安心のある暮らし〕

水と緑輝く北国の自然のなかで循環と共生が社会に根づき、暮らしにゆとりと安心を実感できる北海道

〔個性と活力に満ちた地域〕

地域主権の取組が広がり、個性豊かで活力に満ちた地域に、誇りと愛着をもって住み続けられる北海道

<基本姿勢>

英知と行動力で
地域をつくる・支える

世界に通じる
北海道価値を高める・広げる

創造と挑戦で
未来を描く・拓く

第3章 政策展開の基本方向

(20p～59p)

計画のめざす姿を実現するため、道が道民とともに進める政策展開を5つの分野に区分し、それぞれの分野ごとに展開の基本的な方向と指標を示す。

強みと可能性を生かした
力強い経済・産業
〔経済・産業〕

- 民間需要に支えられた力強い経済の構築
- 北海道産業のグローバルな展開
- 将来に希望をもって働ける環境整備

安心で心豊かな
北海道ライフスタイル
〔暮らし・ライフスタイル〕

- 人口減少・高齢化に対応した社会の構築
- 安全な暮らしを支える医療と保健・福祉の推進
- 安全・安心な生活の確保
- 多様なライフスタイルの選択を可能にする社会の構築

人と自然がともに生きる
環境のフロントランナー
〔環境・エネルギー〕

- 人と自然の共生を基本とした環境の保全と創造
- 環境への負荷が少ない持続可能な社会の構築
- 環境と調和したエネルギー対策の推進

未来を支える
創造的な人づくりと
知のネットワーク
〔人づくり・情報・科学技術〕

- 産業社会の変化や新しい時代に対応できる人づくりの推進
- 暮らしや産業の質を高める「知のネットワーク」の構築

時代を見据えて
つくり、生かす社会資本
〔社会資本〕

- 社会資本の戦略的・効果的な整備
- 社会資本の効果的・効率的な維持管理

政策の目標と成果を表す指標を設定（「ほっかいどう未来づくり戦略」を含め、全体で60程度。）
～ 食料自給率、ものづくり産業の付加価値率、就業率、ブロードバンドサービスの世帯普及率など

第4章 地域づくりの基本方向

(60p~81p)

地域の特色を生かしながら、人口減少・高齢化時代における我が国の地域社会のモデルとなるよう、持続可能で活力ある地域づくりを推進する。

1 個性豊かで活力に満ちた持続可能な地域づくり

「めざす姿」に基づいて、3つの視点から地域づくりを推進する。

多様なネットワークに支えられ持続可能で活力ある地域

連携・相互補完を強める

個性豊かで国内外を魅了する地域

地域の個性や魅力を最大限に生かす

地域主権型社会にふさわしい主体性・自立性に基づく地域

地域主権型社会をつくる

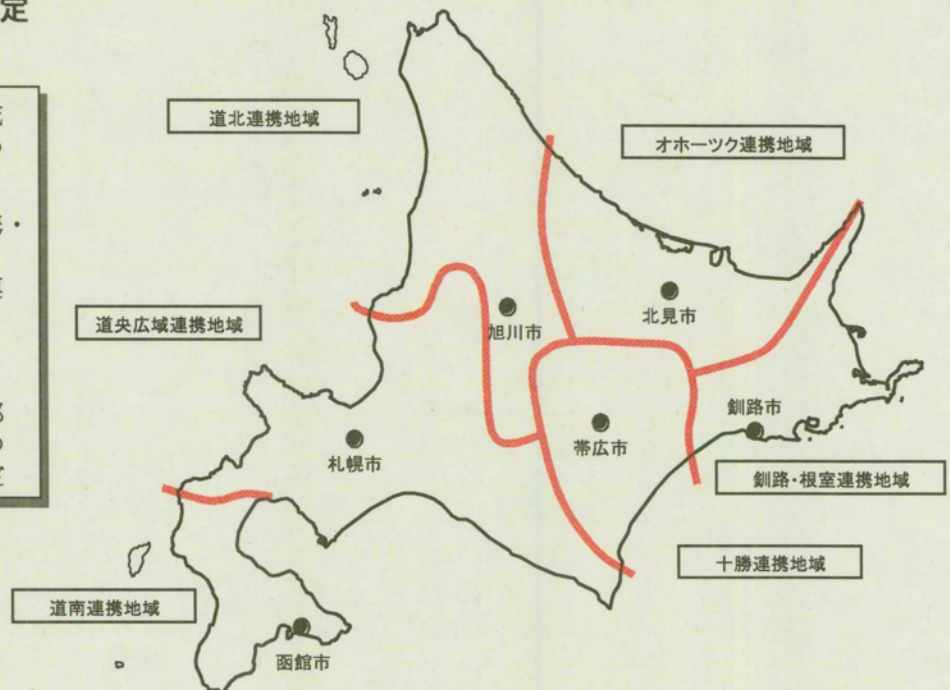
2 計画推進上のエリア設定

持続可能で活力ある地域づくりを進めていくためには、

- ・都市と農山漁村の連携・相互補完の強化
- ・地域の多様な主体の連携・協働

などが必要

➡ 拠点性の高い中核都市を核とした6つの「連携地域」を設定



3 地域づくりの手立て

連携地域ごとの「政策展開方針（仮称）」の策定

連携地域ごとに、特性や特色に応じて、必要な課題について地域に根ざした政策を展開するため、道民や市町村の参画を得ながら、地域の多様な主体が協働して、地域のめざす姿や重点的に取り組む施策などを取りまとめる「政策展開方針（仮称）」を策定。

4 地域の姿

連携地域ごとに、地勢や産業などの概要と特色を生かした地域づくりの可能性と方向を示す。

「めざす姿」をより確実に、より効果的に実現するため、基本構想編第3章の「政策展開の基本方向」を踏まえつつ、北海道全体の政策資源（資金、人材、情報など）を結集して取り組むべきテーマを絞り込み、そのテーマに沿った取組の道すじや手立てを示す。

《8つの戦略》

世界に打って出る、食産業戦略

成長する東アジア市場や、競争が激化する国内市場において、一層の優位性が発揮できる力強い食産業を構築する。

■ 戦略展開の柱

- ・ 安全・安心で高品質の農水産品づくりの推進による一次産業の競争力の強化、マーケティングを重視した加工食品の高付加価値化や新しい食のブランド化の推進
- ・ 道産食品の市場開拓・拡大の促進、国内外の販路拡大のためのサポート機能整備

世界が集い、地域が輝く観光のくにづくり戦略

世界があこがれ、訪れた人々を魅了する「感動のくに・北海道」を形成し、地域内の循環を高めることにより、道内各地域の元気を生み出す。

■ 戦略展開の柱

- ・ 地域・産業が一体となった質の高い観光地づくりや受入環境の整備
- ・ 北海道観光の魅力の国内外に向けた情報発信、マーケット動向を見据えた効果的なプロモーションの実施
- ・ 全道規模、地域レベルでの観光推進体制の整備

経済の自立をリードする、ものづくり産業振興戦略

本道経済をけん引するリーディング産業、地域経済を底上げする個性豊かな産業を道内各地に集積し、ものづくり産業が先導する自立型の産業構造をつくる。

■ 戦略展開の柱

- ・ 自動車産業等の集中的な誘致活動と道内地場産業の技術力や経営力の向上、健康医療分野への産業展開の推進
- ・ 産業クラスターやリサーチ&ビジネスパーク構想の取組成果を生かした産学官の連携体制の強化、地域資源等を活用した新製品の研究開発や事業化の促進
- ・ ものづくり産業を支える人材、技術、資金面等での総合的な支援体制の構築

いきいき生きる、躍動シニア戦略

高齢者が健康で生きがいをもって暮らし、躍動するシニアが支える活力に満ちた社会を構築する。

■ 戦略展開の柱

- ・ 道民の健康に対する意識の改革、生活習慣病の予防に向けた健康づくりの推進
- ・ 高齢者のニーズに合った活躍できる場所づくり、就業や社会参加のマッチングなど、高齢者の生きがいづくりの推進
- ・ 拡大する高齢者市場に参入する企業や個人に対する支援の充実

社会で取り組む、のびのび子育て戦略

子育てする親の働き方を見直すとともに、子育ての素晴らしさを地域社会全体で分かち合い、子どもにやさしい社会を構築する。

■ 戦略展開の柱

- ・ 企業などとの連携による育児と仕事が両立できる環境の整備、子育て支援に積極的に取り組む企業のすそ野を広げる取組の推進
- ・ 社会全体で出産や子育て、子どもの成長をしっかりと支えることが出来る環境づくり、育児に係る不安や負担軽減のための取組、母子保健医療体制の整備や多様なニーズに応じた子育て支援の充実

次代につなぐ、新エネルギーフロンティア戦略

地域資源を活用した多様な自立型のエネルギーを利用する社会を構築するとともに、温室効果ガスの排出抑制による地球温暖化の防止に貢献する。

■ 戦略展開の柱

- ・ 企業や家庭における新エネルギーの利用促進、新エネルギーの需要拡大
- ・ 地域資源を活用したバイオマスエネルギーの生産や将来を見据えたエネルギーの研究
- ・ 新エネルギーの利用と省エネルギーの取組定着を目指したエネルギー有効利用社会への転換促進

未来へ贈る、人と自然の共生社会創造戦略

豊かな北海道の自然環境の価値を損なわない適正な保全と利用を進めるとともに、自然環境への負荷を低減することにより、人と自然が共生する美しい社会を構築する。

■ 戦略展開の柱

- ・ 自然環境の適正な保全と利用のルールづくり、取組推進のための体制づくり
- ・ 豊かな自然環境の保全と利用の推進
- ・ バイオマスの利用や再生品の利用拡大などによる、自然環境への負荷が少ない循環型社会の形成

信頼の絆で支える、地域力増強戦略

多様な主体が連携して身近な課題を解決し、地域の価値を高める力である「地域力」の育成・向上を進め、活力ある地域を構築する。

■ 戦略展開の柱

- ・ 地域を担う人材の育成・支援、地域の絆を深めるための環境整備などによる、地域力の育成・向上
- ・ 人材のネットワークづくりや資金面などの支援による地域力の拡大

計画の推進に当たって (118p～119p)

- 計画推進の考え方～パートナーシップ意識の醸成などにより、多様な主体との協働を推進
- 計画の効果的な推進～「特定分野別計画」や連携地域ごとの「政策展開方針(仮称)」等と一体的に推進
- 計画の推進管理～計画の推進状況について中期的な点検・評価を実施